

## ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)

群馬県前橋市元総社町七三-15

TEL 027-2555-3434

FAX 027-2555-3435

http://www.neues-asahi.jp

ノイエスの木々も春の柔らかな光を受け、新緑が美しく生命の勢いを感じます。冬の寒さから目覚める自然の力に小さな感動を覚ええます。

先日、足利のギャラリーで開催されました「ゆきゆきて心を重ねる 草間彌生 下川勝 木下晋」に行ってきました。

草間彌生は、世界的な前衛芸術家として高く評価され、現在、国立新美術館で草間彌生展「わが永遠の魂」が開催されています。

数年前に新潟市美術館で立体を含めた数々の作品を見たいのですが、機会があれば東京での作品も見たいと思っています。

若い頃、草間彌生の小説を二冊ほど読んでいますが衝撃的な内容に驚き、異質な精神性に大きなショックを受けました。

先日、書店で「日経おとなのOFF」や「週刊ダイヤモンド」を開いてみると現代美術やアート作品についての特集が組まれていました。

もちろん草間彌生もページをさいています。

現代美術の定義とは、前衛美術とは・・・なかなか難しい問題です。

荒川修作、李禹煥、篠原有司男、岡本太郎、横尾忠則、イサムノグチ、ヨーゼフ・ボイス、ナムジュン・パイクなど大きな展覧会が開催されるたびに自分の思考回路を破壊されるような衝撃を受けました。

ある時は、鑑賞者としてだけではなく作品の中に入り込む体感者として光と暗闇を目で、自然や人工的な音を耳で、素材の持つ香りを鼻で、そして普段感じられない振動を身体全体で受けとめる不思議な時間でした。日常空間で感じられない作品との出会いです。

雑誌に美術史を教える教授が「この5、6年、学生が明らかに美術館に行かなくなっている。授業で美術という言葉を使うと寝てしまうが、デジタルアートなどアートという言葉を使うと目を覚ます」とありました。確かに美術館へ行く交通費や入場料を考えると若者にとっては展覧会一つ見るのも考えてしまうことでしょう。ましてや話題の展覧会ともなると二、三時間待ちとか・・・。忍耐強く待ち、作品を混雑している状況でゆっくり鑑賞出来ないのでは足も遠のくでしょう。

上野駅を降りて改札口を通過する時点で心の準備が必要となります。作品と向き合う環境を覚悟してチケット売場まで進まなければなりません。山手線や地下鉄を乗り継いで階段を上ったり下がったり、とにかく登山のような服装と靴、最低限の荷物で展覧会には行くようにしています。表現しつくされているように感じていても、さらに拡大する美術(アート)に心躍らされることを期待しつつ・・・。(武藤)

## ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内

## 福島慶治 個展

〈企画〉

会期 五月十六日(火)～二十四日(水)  
午前十時～午後五時三十分(最終日は午後五時)  
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

## 志村ミサ子 彫刻展

〈企画〉

― 土とともに ―  
会期 五月二十七日(土)～六月四日(日)  
午前十時～午後五時三十分(最終日は午後五時)  
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

群馬大学在学中から彫塑制作を始め、現在に至るまで緊張感を持ちつつ作品づくりをしてきました。

昨年には作品集「土とともに 志村ミサ子の作品たち」を刊行し、多くの反響がありました。

作品集の「むすびに」に「これからも歩を止めず、淡々と制作を続けていこうと思っている」とありますが、真摯に作品と向き合う志村ミサ子の姿がそこにあります。ご高覧下さい。

「土とともに 志村ミサ子の作品たち」

定価 二五〇〇円＋税

\*ノイエス朝日で販売しています。

ノイエス朝日は、五月三日(水)～七日(日)まで休廊しています。また、展覧会会期中以外でもスタッフが在廊していない場合がありますので、ご用の方は会期中にお願いいたします。

## 〈県内の展覧会のご案内〉

## 田島弘章 追悼展

会期 五月十三日(土)～二十七日(土)  
休廊 日曜日  
平日 午前十時～午後七時  
土・祭日 午前十一時～午後六時  
会場 アートギャラリー ミューズ  
電話 027-243-3888

## 藤森カツジ・点描のエクリチュール

会期 五月三日(水)～二十八日(日)  
休館 月曜日  
会場 広瀬川美術館  
電話 027-231-7825  
入場料 五〇〇円  
\*五月十四日(日)午後二時、  
鼎談「作家と語る」染谷滋・酒井重良

遠野に住むガラス絵作家の児玉房子さんから、館長をされている「天ヶ森ガラス絵館」のご案内とお便りをいただきました。児玉さんには、ルーマニア、スペイン、オーストリアをはじめチェコなどガラス絵の源流を訪ねる一人旅をしての著書や、遠野で出会った魅力ある人々との交流を綴った「遠野の女たち」があります。

今回、封書の中に「アヒンサー 未来に続くいのちのために 原発はいらない」第6号という雑誌が入っていました。アヒンサーとは、サンスクリット語で「殺されたくない、殺したくない。生命あるものを傷つけない」という意味だそうです。6号の内容は、「地球と生命と酸素の歴史」「生命を支える善玉の活性酸素」や世界に広がっている放射能汚染などについて内科医が書いています。

レイチェル・カーソンが「沈黙の春」で警鐘をならしている生態系などの環境変化、人間が自然をコントロールする愚かさは、人類が生きているため、そして子や孫、子孫まで美しい自然を受け継いでいくために再読する意味もあるようです。「アヒンサー」は、ノイエスにありますので興味のある方はスタッフに声をかけて下さい。